

編 集 後 記

埼玉大学は1949(昭和24)年11月3日に新制大学として創設され、2019(令和元)年に創立70周年を迎えました。創立50周年にあたる1999(平成11)年には、『埼玉大学五十年史』を刊行しており、本書は『埼玉大学七十年史』として1999(平成11)～2019(令和元)年の20年間の歩みをまとめたものです。

編纂にあたり、執筆を担当されました教職員の方々、そしてご協力頂いた名誉教授の方々とともに、20年という長い期間を振り返りつつ、今日の埼玉大学の姿を今後、どう伝えていくのかという思いも込め、編集作業に携わらせて頂きました。私自身、創立70周年という節目にあたる年に、記念事業に関わることができましたことを大変光栄に思います。

この20年間には、2004(平成16)年度に実施されました国立大学の法人化に伴うさまざまな課題を受け、教育研究組織の再編成、入試改革、大学のグローバル化など多くの改革が、田隅三生(第10代)学長、上井喜彦(第11代)学長、そして山口宏樹(第12代)学長のリーダーシップのもとで進められてきました。その改革は我が国の高等教育が置かれた状況の変化を背景に、国立大学法人のあるべき姿を追求した成果であります。

前書と本書に記された70年という歴史は、人生に相当する長い時間です。この間、世界はめざましい科学技術の発展を遂げた一方で、地球環境が激変し、その結果、人類にもたらされたものは決して小さくありませんでした。また国際社会のグローバリゼーションと高度情報化社会が人々に恩恵とともに弊害をも与え、人の心にもさまざまな面で影響を及ぼしています。多くの人々にとって、大学との接点はほんの一時的なものかもしれませんが、「知性の府」としての大学が、高度な研究と教育を通じて、真に人間の幸福を追求していく「場」である以上、人の一生にどのような形であれ関係するものと、信じています。

埼玉大学の研究教育の目標はいかに達成されたのか、また今後どう展開するべきかを、本書に記された過去の取り組みに学びつつ、この先の10年そしてその先へとより良い方向へと発展してゆくことを願っています。

2019(令和元)年10月

『埼玉大学五十年史追録版』編纂WG主査
副学長(広報・社会連携担当) 井口 壽 乃